

安全データシート (SDS)

作成日：2022年8月3日

改訂日：2024年12月10日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ジブチルアミン
供給者の会社名称 アーク株式会社
住所 大阪市中央区安土町 3-5-13
本町ガーデンシティテラス 3階
電話番号 06-6563-7710
FAX 番号 06-6563-7720

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 JIS Z 7252、7253：2019 使用

物理化学的危険性

引火性液体 区分 3
自然発火性液体 区分に該当しない
金属腐食性物質 区分 1

健康に対する有害性

急性毒性（経口） 区分 4
急性毒性（経皮） 区分 3
急性毒性（吸入：蒸気） 区分 2
皮膚腐食性／刺激性 区分 1B
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 区分 1B
特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分 1（呼吸器系）

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） 区分 2
水性環境有害性 長期（慢性） 区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 引火性液体および蒸気
金属腐食のおそれ

飲み込んだり皮膚に接触すると有毒

吸入すると生命に危険

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

臓器の障害：呼吸器系

水生生物に毒性

【安全対策】 熱、火花、裸火、高温体などの着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。他の容器に移し替えないこと。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

静電気放電や火花による引火を防止すること。

吸入しないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

呼吸用保護具を着用すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。

【応急措置】 吸入した場合、被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。

その後も洗浄を続けること。

皮膚（又は髪）に付着した場合、直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと/取り除くこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。

直ちに医師に連絡すること。

物的被害を防止するため流出したものを吸収すること。

【保管】 換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質／混合物の区別： 化学物質

化学名又は一般名： ジブチルアミン

濃度又は濃度範囲： >99.0%(GC)

CAS 番号： 111-92-2

化学式： C₈H₁₉N

官報公示整理番号 化審法： (2)-137

安衛法： 公表化学物質

4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

多量の水と石鹸で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。

直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

最も重要な徴候及び症状： 咽頭痛、咳、灼熱感、息切れ、息苦しさ、腹痛、虚脱、痛み、
発赤、水疱形成、熱傷、視力喪失

応急措置をする者の保護： 救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

医師に対する特別注意事項： 医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

適切な消火剤： 粉末、泡、二酸化炭素

使ってはならない消火剤： 水（火災を拡大し危険な場合がある）

火災時の特定危険有害性： 燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがある
があるので注意する。

特有の消火方法： 消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

周辺火災時、容器に水を噴霧して冷却する。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 特別個人用保護具（自給式呼吸器）

を

着用する。

漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。

十分に換気を行う。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項： 製品が排水路に排出されないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材： 乾燥砂、不燃性吸収剤などに吸収させて密閉できる容器に回収する。

大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

二次災害の防止策： 付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 取扱いは換気のよい場所で行う。

適切な保護具を着用する。

漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。

熱、火花、裸火、高温体などの着火源から遠ざけること。禁煙。

静電気対策を行う。

設備などは防爆型を用いる。

取扱い後は手や顔などをよく洗う。

注意事項： できれば、密閉系で取扱う。

蒸気やエアゾールが発生する場合には、換気、局所排気を用いる。

安全取扱い注意事項： 皮膚、眼および衣類との接触を避ける。

耐食性のある装置や器具を使用する。

保管

適切な保管条件： 容器を密栓して換気の良い冷暗所に保管する。

施錠して保管する。

酸化剤などの混触危険物質から離して保管する。

安全な容器包装材料： 法令の定めるところに従う。他の容器に移し替えないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 密閉化した設備又は局所排気装置を設ける。

取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。

管理濃度： 設定されていない。

保護具 呼吸器の保護具： 防毒マスク、自給式呼吸器、送気マスク等。

手の保護具： 不浸透性の手袋。

目の保護具： 保護眼鏡（ゴーグル型）。状況に応じ保護面。

皮膚及び身体の保護具： 不浸透性の保護衣。状況に応じ、保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態(20°C) 性状： 液体

形状： 透明

色： 無色 ～ ほとんど無色

臭い： アンモニア臭

pH： 情報なし

融点： -59°C

沸点/沸騰範囲： 159°C

引火点： 43°C

燃焼又は爆発範囲 下限： 1.1% 上限： 情報なし

蒸気圧： 0.3kPa/20° C

蒸気密度： 4.5

比重： 0.76

溶解度 [水] 難溶(3.5g/L, 25° C)

[その他の溶剤] 易溶： エーテル, エタノール 可溶： アセトン

オクタノール/水分配係数： 2.83

自然発火温度： 260°C

10. 安定性及び反応性

化学的安定性： 適切な条件下においては安定。

危険有害反応可能性： 特別な反応性は報告されていない。

避けるべき条件： 火花, 裸火, 静電放電

混触危険物質： 酸化剤, 酸, 金属

危険有害な分解生成物： 一酸化炭素, 二酸化炭素, 窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性： 経口 ラット LD50=550mg/kg (PATTY(5th,2001))

飲み込むと有害（経口）（区分4）

経皮 ラット LD50=768mg/kg (IUCLID(2000))

皮膚に接触すると有毒（経皮）（区分3）

吸入（気体） 区分に該当しない（GHS 定義における液体であるため）
吸入（蒸気） ラット 4 時間 LC50-1.15mg/l (217ppm) (IUCLID(2000))
吸入すると生命に危険（蒸気）（区分 2）
吸入（ミスト） データが無いいため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性： skn-rbt 500 mg open MOD（区分 1B）
眼に対する重篤な損傷／刺激性： ウサギの試験で重度の刺激性（severely irritating）
（iuclid(2000)）の記載があり、5g/l の水溶液の pH が 11.5 である。
皮膚腐食性／刺激性でも区分 1B に分類していることから、区分 1B とした。
重篤な眼の損傷（区分 1B）
生殖細胞変異原性： 分類できない。
体細胞を用いる in vivo 変異原性試験（マウスの骨髄細胞を使用した小核試験）
で陰性（IUCLID(2000)）の記載がある。
発がん性： IARC = 情報なし NTP = 情報なし
生殖毒性： 情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）： ラットを使用して 0.76-3.91mg/l の濃度で 4 時間
吸入ばく露した試験において、生存した動物に異常呼吸、くしゃみが認められ、
死亡した動物には肺の鬱血、肺重量の増加が認められた（IUCLID(2000)）との
記載があり、この試験の濃度は区分 1 のガイダンス値内にある。
区分 1（呼吸器系）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）： データがないため分類できない。
誤えん有害性： データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性：

水性環境有害性 短期（急性） 甲殻類： 情報なし

藻類： 96 時間 EC50=1.16 mg/l (IUCLID, 2000)

水生生物に有毒。区分 2 とした。

水性環境有害性 長期（慢性）

急性毒性区分 2 であるが、急速分解性がある

83% (NO₂), 95% (NH₃) (by BOD), 96% (by TOC), 100% (by GC)

* 既存化学物質安全性点検による判定結果：良分解性 Dibutylamine

区分に該当しないとした。

生体蓄積性： 低濃縮性。Log Kow=2.83

土壌中の移動性： データなし。

オゾン層への有害性： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップ
されていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。

地方条例や国内規制に従う。

焼却処理する場合には、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

14. 輸送上の注意

国連分類： クラス 8(腐食性物質)

副次的危険性： クラス 3(引火性液体)

国連番号： UN 2248

正式輸送品目名： Di-n-butylamine

包装等級： II

輸送の特定の安全対策及び条件： 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行い、法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法： 第 4 類 第二石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性

安衛法（施行令別表第一）： 危険物 四 引火性のもの

船舶安全法： 危規則危険物告示 別表第 1 腐食性物質

16. その他の情報

この MSDS は、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。

ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。

ご購入いただいた商品は、安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。

その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。

また記載の注意事項は通常取扱を対象としたものであって、特別な取扱をする場合は

状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払う必要があります。

すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』という認識で扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。

ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方

のみ、あるいはそれらの方々の指導のもとで取扱うことを警告します。

ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます